より中の日を七日なり、二ノ宮相馬ハ酉の日
より亥の日迄て三日之大相馬ハ七日なれを
三日を小相馬といもんハお尚の理なれを
大座の神号ハ小相馬神社の別号ヨやと云
説も新説なれ共伝れを少記し伝る先年
大社考編集の頃ハを地の古人より委き事を
聞伝へ、三日の相馬ある事ハ今年彼地乃
役人より書写而おくり大社考ヨ云しことく
吹浦村の古記ヨ事一ヨ子相尾大明神事
二ヨ子協編大明神事三ヨ子大座大明神

とあり、古象曰協編を二宮と称ヨるハ二ヨ
子宮の略称之三宮ハ三ヨ子宮の略称なり
といふ例ヨ事一ヨ子宮を略称して一宮
といふへヨ理なれさにあらすして大
相馬神社を以て一宮とヨ子孫世ヨ生れて
お事の説を称ふハ思ありといへ他由乃
例と以て考れハ一宮ヨ指て云数ヨへき神を
二宮三宮といふへヨ是他ハ月山神社ハ二ノ
宮ヨ一て小相馬神社を以て三宮と称し
事ヨへヨ事ヨや お稚由ヨ一宮二宮三宮記